

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	59人	算数	60人	理科	60人
第5学年	国語	46人	算数	45人	理科	46人

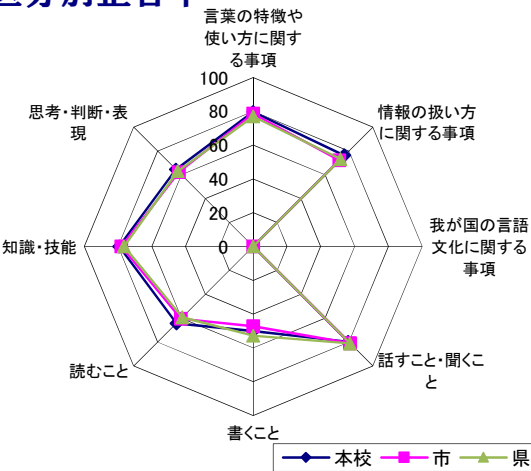
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.7	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	76.3	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	79.7	81.0	81.1
	書くこと	50.0	47.2	52.8
	読むこと	64.2	60.5	59.3
観点	知識・技能	79.3	78.0	76.5
	思考・判断・表現	64.5	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

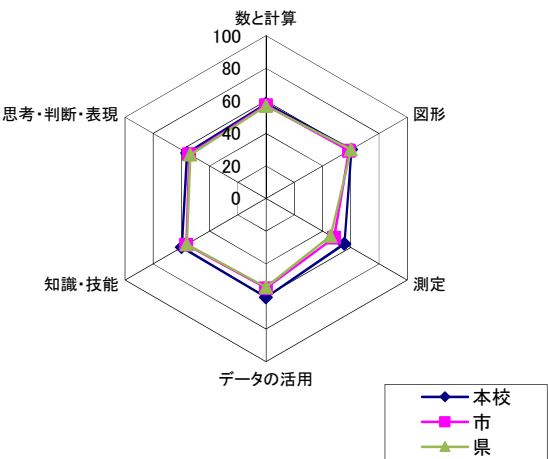
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、79.7%で、市の平均と同程度であった。 ○「ローマ字とその読み方の組み合わせとして適するものを選ぶ。」の設問において、平均正答率が84.8%で、市の平均を7.9ポイント上回った。 ●「絵を見て、台詞の空欄に適する指示する語を選ぶ。」の設問において、平均正答率が86.4%で、3.6ポイント、市の平均をやや下回った。	・ローマ字の理解・活用については、意図的に読む機会や例文作りに取り組む機会を増やすようにしていく。 ・指示語を選ぶ問題については、指示語を使った様々な文章に触れさせる機会を意図的に設定する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、76.3%で、市の平均をやや上回った。 ○「国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ。」の設問において、平均正答率が76.3%で、4.1ポイント、市の平均をやや上回った。	・これからも、国語辞典を用いて言葉の意味や使い方を調べる機会を意図的に設定する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、79.7%で、市の平均をやや下回った。 ●「参加者の発言の内容をもとに司会者の発言として適するものを選ぶ。」の設問において、平均正答率が64.4%で、6.5ポイント、市の平均を下回った。	・国語の授業や他教科、学級活動においての話し合いの際に、自他の発言を整理して聞くことができるように、ポイントを知らせたり、声を掛けたりする。
書くこと	平均正答率は、50.0%で、市の平均をやや上回った。 ○「ロッカーの整とんを呼びかけるポスターはどちらがよいかについて、6行から8行の間で文章を書く。」の設問において、平均正答率が55.9%で、3.9ポイント、市の平均をやや上回った。	・問いに対して、指定された長さで文章を書いたり、意見文の型を踏まえて、短時間で書いたりする練習を行うなどして、引き続き書く力の定着を目指す。
読むこと	平均正答率は、64.2%で、市の平均をやや上回った。 ○「登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ。」の設問において、平均正答率が89.8%で、8.5ポイント、市の平均を上回った。 ●「指示語の内容として、適するものを選ぶ。」の設問において、平均正答率が45.8%で、4.7ポイント、市の平均をやや下回った。	・叙述を基に場面の様子や段落の内容を捉えることができるように、段落ごとに要約する練習を、今後も行うようにする。 ・指示語が指している内容を選ぶ問題については、指示語を使った様々な文章に触れ、指している内容の確認を意図的に行っていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.3	57.4	56.9
	図形	60.4	58.7	60.1
	測定	55.4	48.1	45.7
	データの活用	60.6	54.9	54.3
観点	知識・技能	59.8	56.6	56.2
	思考・判断・表現	55.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

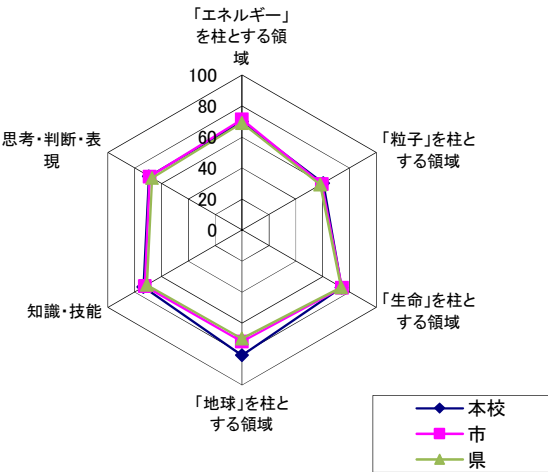
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、58.3%で、市の平均と同程度だった。 ○「大きな数の表し方について正しいものを選ぶ。」の設問において、平均正答率が55.0%で市の平均を7.0ポイント上回った。 ○「3けた－3けた＝3けたの計算をする。」の設問において、平均正答率が90.0%で市の平均を9.5ポイント上回った。 ●「余りを切り上げて答えを求める。」の設問において、平均正答率が46.7%で市の平均を9.3ポイント下回った。	・問題場面を正しく把握できるよう、図や具体物を用い、数の意味や状況に即した考え方を体感する場を意図的に設ける。 ・式の意味を言葉で説明する力を身に付けていけるように、授業内で考える場や時間を十分に確保していく。
図形	平均正答率は、60.4%で、市の平均と同程度だった。 ○「正三角形を作図する。」の設問において、平均正答率が81.7%で市の平均を6.2ポイント上回った。 ●「球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ。」の設問において、平均正答率が60.0%で市の平均を9.7ポイント下回った。	・様々な形の立体を多面的に捉えられるように、模型や粘土などを活用して理解を深めるようにする。
測定	平均正答率は、55.4%で、市の平均を4.5ポイント上回った。 ○「時間が経過する前の時刻を求める。」の設問において、平均正答率が66.7%で市の平均を9.5ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答えることに課題が見られる。	・はかりの使い方や目盛りの読み方を十分に身に付けられるように、日常生活の中で意図的に使う場面を設ける。
データの活用	平均正答率は、60.6%で市の平均を5.7ポイント上回った。 ○「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ。」の設問において、平均正答率が55.0%で市の平均を11.6ポイント大きく上回った。	・様々なグラフから考えられることを読み取り、意見交換する場を設ける。 ・グラフの特徴を言語化する機会を設け、目的に合ったグラフを選べるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	60.4	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.1	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	80.8	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.5	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.3	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、69.9%で、市の平均と同程度だった。 ○「実験結果から、風の強さともを動かすはたらきの関係について解釈し、表現できるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が81.7%で市の平均を上回った。 ●「磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことについて理解しているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が65.0%で市の平均を大きく下回った。	・まとめの活動の際に、科学的な概念を正確に表す表現を指導し、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、60.4%で、市の平均と同程度だった。 ○「粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が40.0%で、市の平均を大きく上回った。 ●「複数の物の重さを同じにした時の、体積のちがいについて考えることができるかどうかをみる。」の設問において平均正答率は、31.7%で市の平均を下回った。	・根拠のある予想や仮説を立てる活動を今後も意識し、取り組ませていく。 ・学習の流れの中で生活とつなげたり、知識を活用したりする場面を取り入れ、科学的な思考を高める。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、74.1%で、市の平均と同程度だった。 ○「モンシロチョウの体のつくりについて理解しているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が91.7%で市の平均を上回った。 ●「クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し、クモが昆虫であるか判断できるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率50.0%で市の平均を下回った。	・理科で学習したことを根拠に、生活の中の事象を科学的に説明する学習活動を十分に行う。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、80.8%で、市の平均を8.8ポイント上回った。 ○「温度計の使い方が身に付いているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が98.3%で市の平均を大きく上回った。	・道具の使用技能を知識として定着できるようにするために、道具を使用する活動を多く取り入れるようにする。 ・実験観察の活動は出来る限り少人数で行い、児童が実際に実験器具に触れたり観察活動を行ったりできるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

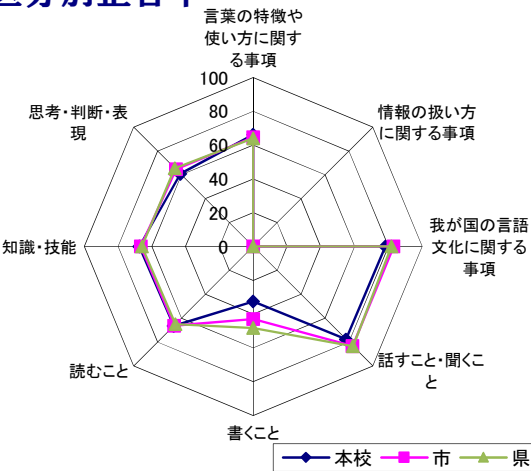
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的割合は96.8%で、家庭での学習習慣が十分身に付いていることが分かる。
○「毎日、朝食を食べている。」の肯定的割合は95.1%と非常に良好な結果であった。引き続き、1日の活力となる朝食を食べて、元気に過ごせるよう、朝食をとることの大切さを伝えていきたい。
○「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的割合は93.4%と県の平均を上回っている。ほとんどの児童が自己肯定感をもって生活できていることがうかがえる。一方で、自分のよいところを感じられていない6.6%の児童へのさらなる支援を行ってきたい。
●「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定的割合は47.6%と県の平均を大きく下回った。何のために宿題をやっているのか理解しないで取り組んでいる様子が見られるため、宿題をやる目的をはっきりとして取り組ませたい。
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の肯定的割合は59.1%と県の平均をやや下回った。ペアやグループでお互いの考えを伝え合ったり、文章にまとめた考えを認め、称賛したりすることで、書くことに対するハードルを下げ、自信をもたせていきたい。
●「分からない国名や地名があつたら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」の肯定的割合は57.4%と県の平均を大きく下回った。授業の中で、分からないことがあつたら、本やインターネット、資料集などを活用して調べる機会を設け、自分から進んで調べる意欲を高めていきたい。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.2	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	78.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	77.7	83.3	83.4
	書くこと	32.6	42.8	48.2
	読むこと	66.6	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.4	66.5	65.9
	思考・判断・表現	60.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

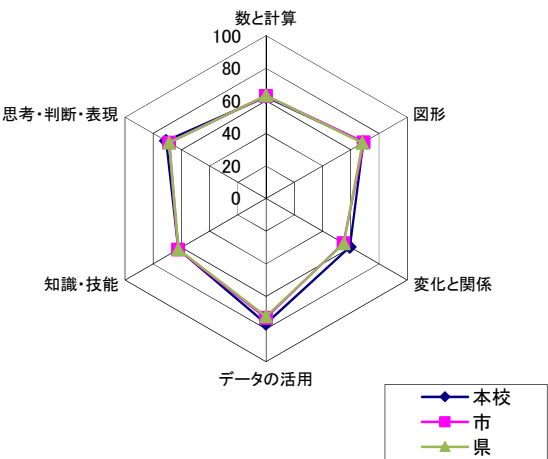
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は66.2%で、市の平均を1.5ポイント上回った。 ○漢字の読み・書きについては、市の平均を0.7ポイント上回った。 ○連用修飾語の設問において、平均正答率は17.4%で、市の平均を5ポイント上回った。	・漢字の読み書きについて、新出漢字を使った熟語に触れさせたり、意味調べをさせたりして、日常的に漢字を使えるようにする。 ・定期的に漢字小テストを実施することで、漢字の習得を図る。 ・修飾語の理解・活用については、意図的に授業の中で復習したり、例文作りに取り組む時間を増やしたりするなどして、身に付けられるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は78.3%で、市の平均を4.8ポイント下回った。 ●「ことわざの使い方を理解し、『ちりも積もれば山となる』を正しく使っている文を選ぶ。」の設問において、平均正答率は78.3%で、市の平均を4.8ポイント下回った。	・国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、言葉の意味を十分に理解させ、日記や短文作りなどで実際に使うことで、語彙力を増やしていけるように指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は77.7%で、市の平均を5.6ポイント下回った。 ○『絵を使った学校しようかい』と『歌の発表』のどちらがよいと思うかについて、自分の考えを理由を挙げながらまとめる。」の設問において、平均正答率は87.0%で、市の平均と同程度だった。 ●「話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ。」の設問において、平均正答率は71.7%で、市の平均を10.6ポイントと大きく下回った。	・話を聞く際には、自分と話し手の考えの共通点や相違点を意識させながら聞くように指導する。 ・各教科や学級活動などの場面で自分の意見を述べる際に、理由や根拠となる情報を挙げて話すことができるように、継続して指導していく。
書くこと	平均正答率は32.6%で、市の平均を10.2ポイント下回った。 ●「みんなが清掃の開始時刻を守れるようになるためにどうすればよいかについての考えを、2つの段落に書く。」の設問において、平均正答率は32.6%で、市の平均を13.4ポイントと、大きく下回った。	・「書くこと」で学習したことを、各教科の中で横断的に使えるようにしていく。 ・朝の学習や授業の時間を使い、条件に合わせて自分の考えを文章にまとめる機会を設けることで、引き続き書く力の定着を図る。 ・問題で問われていることを理解できるように、問われていることを整理する練習を行う。
読むこと	平均正答率は66.6%で、市の平均と同程度だった。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、空欄に適するものを選ぶ。」の設問において、平均正答率は78.3%で、市の平均を8.8ポイント上回った。 ●「登場人物の気持ちについて説明した文の空欄に適する言葉を書く。」の設問において、平均正答率は28.3%で、市の平均を5.8ポイント下回った。	・物語を読む際に、場面の様子、人物の行動や心情などの描写を丁寧に捉えて想像をより広げながら読むようにする。 ・他教科においても、既習事項の活用、文章の構成を意識させながら、読む力の向上を目指す。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.4	63.0	63.3
	図形	68.9	69.2	68.3
	変化と関係	59.3	54.8	55.0
	データの活用	76.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	62.2	62.3	62.1
	思考・判断・表現	70.9	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

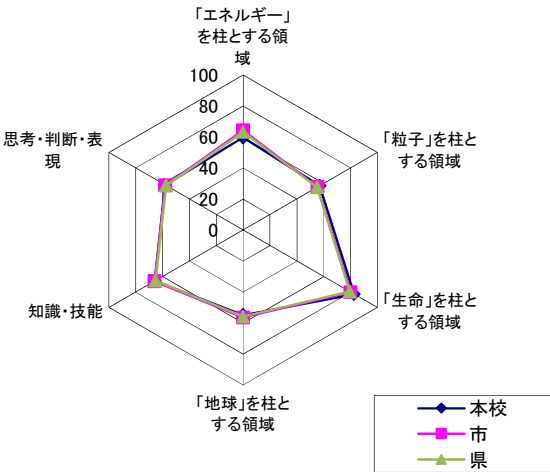
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、62.4%で、市の平均と同程度だった。 ○「計算の間違いを説明する。」の設問において、平均正答率が66.7%で市の平均を10.0ポイント上回った。 ●「23億が、23万の何倍かを考える。」の設問において、平均正答率が24.4%で市の平均を大きく下回った。 ●「数直線の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表す。」の設問において、平均正答率が35.6%で市の平均を大きく下回った。	・大きな数の表し方や分数のしくみについて、理解が十分ではないので、復習の機会を設け、基礎基本の確実な定着を図る。 ・ドリル等を活用し、繰り返し復習させることで、計算力のより一層の習熟を目指していく。
図形	平均正答率は、68.9%で、市の平均と同程度だった。 ○「立方体と直方体の違いを選ぶ。」の設問において、平均正答率が99.3%で市の平均を7.2ポイント上回った。 ●「三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を選ぶ。」の設問において、平均正答率が62.2%で市の平均を9.1ポイント下回った。	・三角定規の角の大きさを理解させ、組み合わせでできる角の大きさについて繰り返し復習することで定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、59.3%で、市の平均をやや上回った。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す。」の設問において、平均正答率が55.6%で市の平均を6.6ポイント上回った。 ●割合を使った長さの求め方に課題が見られる。	・普段の授業において、数直線や図を用いて、問題場面を理解させる。 ・意図的に話合いの場を設け、問題の考え方を自分の言葉で表現する力を育てる。
データの活用	平均正答率は、76.7%で、市の平均をやや上回った。 ○「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る。」の設問において、平均正答率が84.4%で市の平均を大きく上回った。 ●「二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える。」の設問において、平均正答率が71.1%で市の平均を3.2ポイント下回った。	・二次元表の意味を理解させるために、算数科だけでなく、他教科でも表を活用する機会を増やす。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	59.8	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	57.0	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.6	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	54.9	56.4	55.8
観点	知識・技能	65.8	66.0	65.3
	思考・判断・表現	58.2	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、59.8%で、市の平均をやや下回った。 ○「検流計のしくみや、乾電池のつなぎ方を変えた時の電流の向きや大きさについて理解しているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が67.4%で市の平均と同程度だった。 ●「直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて理解しているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が43.5%で市の平均を大きく下回った。	・実験・観察等を行うなど体験を伴う活動を取り入れ、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、57.0%で、市の平均と同程度だった。 ○「水のあたたまり方について、実験の結果を解釈し、考察できるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が73.9%で市の平均を上回った。	・実験や観察で得られた結果を、自分の言葉でまとめる活動の時間を今後も十分に確保し、考察する力の向上に努める。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、82.6%で、市の平均をやや上回った。 ○「骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が52.2%で市の平均を上回った。 ●「動物の越冬について調べた結果を基に、考察を導き出せるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が82.6%で市の平均を下回った。	・家庭との連携や教科横断的な視点を取り入れ、自然事象に触れる機会を増やすよう働きかける。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、54.9%で、市の平均と同程度だった。 ○「1日の気温の変化の様子を表したグラフを、正しく読み取ることができるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が56.5%で市の平均を大きく上回った。 ●「空気中の水蒸気が冷やされると結露して液体の水になることを、窓に付いた水滴と関連付けて考えることができるかどうかをみる。」の設問において、平均正答率が19.6%で市の平均を大きく下回った。	・日常的な事象を数多く取り上げ、身近な自然の事物・現象を科学的な視点で捉え、理解できるように教育活動全体で働きかけを行っていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定的割合は、100%で県の平均より4.4ポイント上回り、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活に役に立つと思う。」の肯定的割合は、県の平均より2.4ポイント上回っていた。学習に熱心に取り組んでいる様子がうかがえる。

○「授業の中で、学習の目標(めあて・ねらい)がしめされている。」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定的割合は、それぞれ県の平均を4.8ポイント、4.3ポイント上回った。授業のめあてを明確にして学習に取り組み、その時間に学習したことをしっかりと振り返るなど、前向きに授業に取り組む姿勢がうかがえる。

○「人と話すことが楽しい。」の肯定的割合は、100%と県の平均を4.2ポイント上回った。今後も一人一人が楽しく過ごすことができる雰囲気づくりに努めていく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定的割合は、県の平均より3.8ポイント下回った。「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的割合は県の平均と同程度だった。家庭学習はするものの、自分に必要な学習の内容を考え、計画・実行する力が身に付いていないことがうかがえる。家庭と連携を図りながら、家庭学習の意義ややり方について再度指導しながら取り組んでいく必要がある。

●「毎日、同じぐらいのときくにねている。」の設問では、寝ていないと回答する割合が、県の平均を4.7ポイント上回った。家庭と連携を図りながら、規則正しい生活の大切さについて指導したり啓発したりする必要がある。

●「自分の行動や発言に自信をもっている。」の肯定的割合は、県の平均を7.0ポイント下回った。自分のしていることが学級の役に立っているということを伝え合う場を設けたり、教師が言葉で伝えたりして、集団への所属感、自己有用感を高めていくようにしたい。

宇都宮市立昭和小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化	学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなど、ポイントを絞って基礎学力アップを図っている。また、保護者とも連携し、「家庭学習の記録」を活用して、家庭学習を充実させている。 今後も、継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。	4、5年生ともに、「家で、学校の宿題をしている。」に肯定的に回答した児童の割合は、それぞれ96.8%、95.6%と、どちらの学年も県の平均を上回った。一方、自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定的回答の割合は、4年生で47.6%で県の平均を17.3ポイント下回った。また、5年生では63.0%で県の平均を3.8ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習において、ほとんどの児童が宿題に取り組んでいる一方、自分で学習内容を計画して取り組むこと、予習や復習をすることについては課題が見られた。	・自ら学ぶ姿勢を育てる。	・家庭学習の仕方について、再度、意義や内容などを確認する。 ・発達段階に応じ、家庭学習の内容を自分で計画し振り返る機会を増やす。 ・家庭との連携を図る。 ・よい取り組みを紹介する。 ・普段の授業の中で、疑問に思うこと、さらに学びたいと思うことを取り上げ、児童が学習の内容を考える際のヒントとなるようにする。 ・児童が取り組みたくなるような、家庭学習の内容を教師が工夫し、自ら学ぶ喜びを体得させる。